

テーマ：ロイター短観（2013年11月）

発表日：2013年11月14日（木）

～製造業は素材型中心に小幅改善、非製造業も3ヶ月ぶり改善～

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 エコノミスト 高橋 大輝

TEL：03-5221-4524

		製造業DI											非製造業DI							
		素材型						加工型						不動産・建設	卸売	小売	通信・情報サービス	運輸・電力	その他サービス	
			繊維・紙パ	化学製品	石油・窯業	鉄鋼・非鉄			食品	金属・機械	電機	輸送用機器	精密機器、その他							
2012	1月	▲5	▲4	0	▲5	▲12	0	▲6	17	▲10	▲29	14	7	6	▲15	6	8	0	22	
	2月	▲11	▲8	▲9	0	▲12	▲22	▲13	0	▲28	▲29	14	8	5	▲5	18	4	▲8	0	
	3月	2	4	11	5	▲12	14	0	0	▲9	▲8	27	0	5	▲16	17	0	13	▲9	
	4月	1	▲6	▲33	5	▲15	0	6	33	5	▲9	15	7	10	10	6	▲15	7	0	
	5月	2	2	0	4	0	0	3	20	3	▲6	12	0	11	0	9	0	27	▲8	
	6月	▲3	▲2	9	▲5	0	▲11	▲4	20	▲3	▲12	0	0	11	0	16	11	37	▲3	
	7月	▲2	0	▲9	10	▲15	0	▲3	0	0	▲13	5	0	8	▲9	23	13	16	▲8	
	8月	▲4	▲5	▲9	0	0	▲12	▲4	0	▲4	▲10	0	9	8	0	28	▲5	14	▲4	
	9月	▲5	▲6	▲9	▲13	0	11	▲5	25	▲4	▲13	6	▲7	7	▲9	12	▲5	20	▲4	
	10月	▲17	▲13	▲20	▲17	0	0	▲20	0	▲18	▲27	▲11	▲25	7	▲9	15	0	10	▲4	
	11月	▲19	▲15	▲18	▲19	0	▲13	▲21	20	▲32	▲28	▲24	0	1	0	6	0	10	▲20	
	12月	▲18	▲14	▲17	▲19	0	▲11	▲20	20	▲22	▲34	▲17	▲9	5	10	5	▲5	14	▲13	
2013	1月	▲17	▲15	▲30	▲9	0	▲22	▲18	20	▲20	▲25	▲19	▲9	10	9	18	5	29	▲16	
	2月	▲13	▲15	▲36	▲4	▲15	▲13	▲11	20	▲19	▲26	6	0	8	9	25	▲5	7	▲17	
	3月	▲11	▲14	▲30	▲10	▲16	0	▲10	20	0	▲28	▲6	0	12	0	20	14	33	▲21	
	4月	▲4	▲12	▲18	▲9	▲15	▲11	3	▲20	21	▲14	14	0	12	17	20	19	19	▲15	
	5月	7	0	▲30	9	25	▲10	13	0	22	10	7	9	19	18	32	8	40	▲4	
	6月	15	12	▲20	20	12	27	17	43	18	6	21	17	20	25	18	4	40	4	
	7月	13	4	▲20	5	15	20	16	14	16	15	29	7	18	21	18	12	26	▲4	
	8月	16	20	0	28	14	30	14	29	8	15	21	9	23	27	33	4	38	▲5	
	9月	12	12	▲10	19	15	17	12	14	13	3	27	9	20	36	19	▲4	42	0	
	10月	12	15	0	15	15	27	10	0	8	7	32	▲9	18	25	32	▲13	50	0	
	11月	14	22	0	25	14	44	10	▲17	4	11	18	17	22	29	35	▲5	42	8	
3ヵ月後見通し		16	22	0	30	14	33	12	▲17	9	11	18	25	28	29	35	22	37	12	

（出所）ロイター「ロイター短観」

○製造業DI：素材型を中心に小幅改善

11月ロイター短観（調査期間10月25日～11月11日）の製造業DIは+14（10月：+12）と、前月から小幅改善となった。製造業の景況感は引き続き良好だと判断できよう。製造業の景況感が高水準での推移が続いており、それはQUICK短観など他の統計調査とも共通する。ただし内訳をみると、改善が4業種、悪化が4業種とまちまちの結果となった。改善したのは、化学、鉄鋼・非鉄、電機、精密・その他である。鉄鋼・非鉄は前月差+17と急改善しており、足元の好調な建設需要などが影響しているとみられる。また、需要の回復について「完全ではないが、かなり回復している部分がある」（化学）といったコメントがみられ、景況感の改善に繋がっているものとみられる。一方、悪化となったのは石油・窯業、食品、金属・機械、輸送用機器である。「中国をはじめとしたアジアの受注が依然として芳しくない」（電機）、「欧州における不振」（輸送用機器）とのコメントがみられ、輸出の改善が足踏みしていることなどが原因になっている可能性がある。

このところの基調をみると、素材型が改善傾向で推移している一方で、加工型の景況感がやや悪化傾向で推移していることが目を引く。「円安基調や中国の人件費高騰による利益率圧迫が続いている」（その他製造）とのコメントがみられ、コスト高による収益の圧迫に悩む企業が少なくないことや前述した輸出の持ち直しの足踏みなどが背景にあるとみられる。もっとも、すでにDIの水準が高いことを考えると、DIの改善が進まないことを悲観的に捉える必要はないだろう。

3ヶ月後の見通しは+16と11月実績（+14）から改善が見込まれている。輸出の増加や消費税率引き上げに伴う個人消費の駆け込み需要が見込まれることなどから、製造業の景況感が高水準の推移が続こう。

○非製造業D I：前月差+4と3ヶ月ぶりに改善

非製造業D Iは+22（10月：+18）と3ヶ月ぶりに改善した。非製造業の景況感は2ヶ月連続で悪化が続いていたものの、今回は底堅さが確認された。内訳をみても、6業種中5業種が改善と良好な結果だ。不動産・建設は昨年2月に成立した緊急経済対策によって公共投資が増加したことや消費税率引き上げ前の住宅の駆け込み需要が引き続き景況感の下支えになっているとみられ、「公共予算の通りがよく受注が堅調」、「駆け込みもあり、受注量は増加傾向」（不動産）などのコメントがあった。このところ弱めの推移となっていた小売では「新車販売が引き続き好調」（小売）などの声もあり、前月差+8と改善した。新型車の発売効果に加え、耐久消費財を中心に駆け込み需要が発生し始めている可能性もあるだろう。

3ヶ月後の見通しは+28（11月実績：+22）とさらなる改善が見込まれている。卸・小売などで改善が見込まれており、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要への期待が高まっているようだ。内訳をみても、多くの業種が改善を見込んでいる。非製造業の景況感は、現在の水準の高さに鑑みると、大幅な改善は考えにくいものの、今後も良好な水準を保つことができる可能性が高いだろう。

